

## 岡部定一郎「福岡城寸描」(22)

### 1. 福岡城の構え

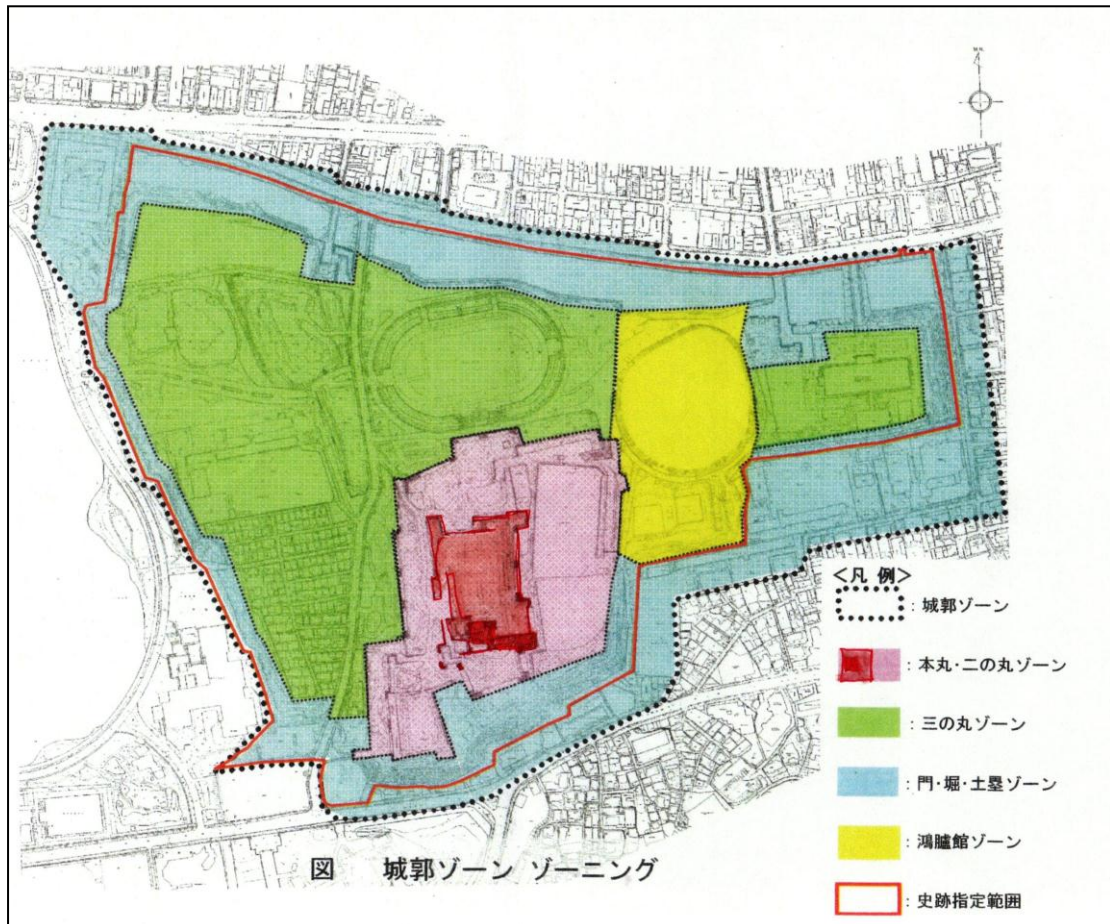
#### 福岡城郭は4段重ねでできている

福岡城は、482,000㎡の巨城であり、天下の名城と評され、国の史跡に指定されている。  
織豊時代以降の城の多くは平丘城で、本丸・二の丸・三の丸と三段重ねの城郭が多かった。

黒田長政は、大休連山の北面にあった赤坂山、福崎の地を、一段削って本丸、二段削って二の丸、三段目を広げて三の丸とした。本丸の上に、更にもう一段積み上げた所が、三連守型(大天守・中天守・小天守)の天守台で、現在も立派に残っている。

更に、全城郭を石垣で守り、周囲を水で固めて外敵に備えた。

三の丸は、黒田24騎の一角をなす重臣たちの居住区、二の丸は、黒田藩の政治を担う行政区であり、本丸には、歴代の殿様が公的行事を行う御殿があった。



※濃赤の部分は天守台    ※黄色の鴻臚館ゾーンは、江戸時代は三の丸ゾーン